

地域と共に成長する富岡まちづくりセンター

所沢市富岡まちづくりセンター(埼玉県)



全国都市改善改革実践事例発表会で最優秀賞を受賞

富岡シニアスマホ学園で3者がWIN-WIN-WIN～

【目的】スマホを持っていないけれども、上手く使用できないシニア層をターゲットに、学生ボランティアと一緒にスマホの活用を解決すること
 【効果】高齢者のデジタルデバイド対策を目的としています。※事前申込者(人)は100名、当日参加者は約150名です。



富岡シニアスマホ学園で3者がWIN-WIN-WIN

公民館の沿革・年表

- ・昭和31年 9自治会と富岡中学校が、中学校図書室の一室を借用し、富岡公民館を設置し、発足
- ・昭和45年 所沢市立富岡公民館 完成(旧所在地)
- ・昭和62年 所沢市立富岡公民館 新築移転(現所在地)
※地区体育館・図書館分館を併設
- ・平成23年 富岡まちづくりセンターが発足(公民館、コミュニティ推進機能、窓口サービス機能を備える)
- ・令和7年 教育委員会から公民館を市長部局(市民部)に移管し、公民館を一元的に運営

左図・写真の説明など(PRポイントなども可)

令和6年度にシニア向けのスマホ教室「富岡シニアスマホ学園」の取組が評価されて、所沢市代表として発表した「全国都市改善改革実践事例発表会」(全国14都市が参加)で、最優秀賞を受賞した。若い職員二人が全国大会で最優秀賞を受賞したことで大きく成長できた。公民館の役割は「人づくり・地域づくり」と言われるが、実は職員も大きく成長できる「場所」であり、企画・実行力がある職員に成長することで、ひいては、将来の所沢市をより良くするチカラになる。当事業の仕組みが「人づくり・地域づくり」に貢献している。

公民館情報	1. 公民館対象人口	22245人	4. 利用可能時間	8:30～21:30
	2. 建物設置年月日	昭和45年12月1日	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN(Wi-Fi等)
	3. 開館日数	346日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	20台
7. 運営主体	☐ 市町村教育委員会 ☐ 指定管理者 () ☒ その他 (市長部局(市民部))			
8. 来館者数	☒ 学級・講座 3,916人 ☒ 貸館、サークル活動 57,055人 ☒ 講演会、展示会等 3,142人 ☒ その他 4,583人 (文化祭、体育祭、二十歳のつどい、三世代まつり等) 合計 68,696人			
9. 職員数	☒ 専任 3人 ☒ 兼任 1人 ☒ 非常勤 4人 ☐ ボランティア協力者 人 (職員のうち社会教育士の数 人 職員のうち社会教育主事有資格者の数 2人) 合計 8人			
10. 予算	☒ 市区町村予算 ☐ 委託金 ☐ 自治組織等予算 ☐ 寄附等 ☐ その他 ()			
11. 公民館運営審議会	☒ あり ☐ なし ☐ その他 ()			
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	☒ 地域防災・減災 ☒ デジタル・デバイドの解消 ☐ 家庭教育支援 ☒ 体験活動 ☐ 地域学校協働活動 ☐ 障害者の学び支援 ☐ 日本語教育の推進 ☐ 義務教育未修了者への支援 ☒ 伝統文化継承活動 ☒ 世代間交流活動 ☒ こども・若者の居場所づくり ☒ 子育て支援 ☒ ボランティア養成 ☒ 地域資源を活用したまちづくり ☐ コミュニティ・スクール ☐ 社会人の学び直し ☒ その他 (夏・冬季に自習室を開設。謎解きイベントを定期開催。性教育事業の開催。)			
13. 施設の特徴、魅力	☒ 複合施設 ☒ 図書館 ☐ 学校 ☐ 生涯学習センター ☒ その他 (地区体育館、出張所機能(証明書の発行・納税等)) ☒ 自由記述 (1・2階のロビーを地域住民の憩いの場として開放。施設内にウォーキングコースを設置。)			
14. 各種事業等で連携・協働している団体等(団体名記述)	☒ 幼稚園・保育所 ☒ 小中学校 ☒ 高校 ☒ 大学 ☐ 企業 ☒ NPO ☒ 各種団体 ☐ 行政機関 ☒ 図書館 ☐ 博物館 ☐ 青少年教育施設 ☐ その他 ひまわり保育園。所沢市立富岡小・中富小・西富小、富岡中。所沢北高校・秋草学園高校。早稲田大学・秋草短期大学。NPO法人みんなのひろば。所沢図書館富岡分館。			

所沢市富岡まちづくりセンター

OPEN 8:30～21:30

H P

<https://www.city.tokorozawa.saitama.jp/shinetsu/shisetsu/somokasyunohochi.html>

TEL 04-2942-3110

SNS

<https://www.instagram.com/tokomachi11/?igah=MWx0MzQ4bnd0a2VscA53Dk3Dg>


1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

【**地域課題の把握**】令和6年2月に所沢市高齢者支援課が「介護予防・認知症予防普及啓発アンケート」の結果を公表し、富岡地区の回答結果として（70歳以上の1,171人から回答）、「スマートフォン、タブレット、パソコンのいずれかを持っているか」との設問に「約8割が持っている」と回答し、また「スマートフォン等の使い方教室や講座に興味があるか」との設問に「約4割が興味がある」と回答した。このことから、70歳以上の約8割がスマホ等を持っており、そのうちの約4割がスマホ教室があれば参加したいことが検証でき、実際生活に即するニーズを把握できた。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

【**富岡シニアスマホ学園（デジタル・ディバイドの解消、世代間交流活動、ボランティア養成、地域資源を活用したまちづくり）**】

この講座の特徴は、スマホ操作を教わるシニア、スマホ操作を教える学生ボランティア、そして富岡まちづくりセンターの3者にメリットのある「WIN-WIN-WIN」の仕組みを構築したことである。

具体的には、①シニアの方は学生ボランティアからスマホの使い方を教わることで、スマホの悩みが解消し、若い学生との世代間交流が図れるというメリットがある。②学生ボランティアには、社会経験・世代間交流・地域貢献することができるだけでなく、富岡まちづくりセンターが発行するボランティア証明書をもらうことで、進学などに利用できるメリットがある。③富岡まちづくりセンターには、高齢者のデジタルデバイド（情報格差）の解消、地域振興につながる。こうして、3者ともに「WIN-WIN-WIN」の事業となった。

【**地域のプロを巻き込む**】

高齢者事業のプロである富岡地域包括支援センターの協力やスマホ操作やスマホ機種のプロである(株)ジェイコム埼玉・東日本所沢局の協力を得て開催したことで、地域の頼りになるプロを巻き込み、学生ボランティアだけでないサポート体制が築かれた。



富岡シニアスマホ学園の正門



開催風景

3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

【**デジタルツールの活用**】

学生ボランティアの募集や申込みにデジタルツールを使うことで、業務の効率化を図った。具体的には、「学生ボランティア募集」の周知を、市の子ども未来部が運営する公式LINEアカウント「所沢市子ども・若者情報チャンネル」で情報発信することで、高校2年生から大学2年生の年齢層の約8,700人にピンポイントでボランティア情報を提供することができた。また、学生からのボランティア申込みは、市が導入しているkintoneにより、24時間いつでもネット上での申込みができるようになった。さらに、申込みフォームから送られてくるデータをそのまま活用できるため、学生ボランティアの名簿作成・管理が効率的になった。



デジタルツールの活用

4. 取組による成果や効果

【**WINシニア-WIN学生-WINまちセン-WIN所沢市の事業に**】当事業が評価されて、所沢市代表として出場した「全国都市改善改革実践事例発表会」で最優秀賞を受賞。若い職員二人が全国大会で最優秀賞を受賞したことで大きく成長できた。公民館の役割は「人づくり・地域づくり」と言われるが、実は職員も大きく成長できる「場所」であり、企画・実行力がある職員に成長することで、ひいては、将来の所沢市をより良くするチカラになる。

5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

公民館運営審議会で定期的に事業報告し（当事業を2回報告）、評価する仕組みがある。また運営に携わる富岡まちづくりセンターや学生ボランティア等で事業終了後に反省会を実施し、その日の反省点や改善案、運営に関すること等の意見を共有し、次回に生かすことで、回数を重ねるごとに事業がブラッシュアップされている。



事業終了後の反省会

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

公民館の役割は「人づくり・地域づくり」と言われるが、実は職員自身も大きく成長できる「場所」が公民館である。今後も職員自らが地域と共に成長し、地域に貢献できる公民館を目指していく。

『職員自らが地域と共に成長し、地域に貢献できる富岡まちづくりセンター』



学生ボランティアも成長している